

■実践事例 9 【発達障がい】 高等学校・第2学年（Iさん）

自己肯定感が低く、計画的に行動することが難しい生徒に対し、自分のよさや適切な代替手段を考える学習を通して、将来の社会的自立を目指した自立活動の指導

1 指導内容を設定するまで

実態把握



通級担当

Iさんは、指示されたときは理解できますが、時間が経ったり、別のことをしたりしていると指示を忘れることや、予定の時間に間に合わないことがあります。

なるほど。記憶を保持しておくことに苦手さがあるのですね。何か記憶の保持の**苦手さを補う方法**はありますか。



特セン所員



最近、大事なことは、自分からスマートフォンのリマインダーに入力したり、ボイスメモに録音したりしています。

Iさんは、**自ら気付いて実感できる**ような学習をすることにより、自分なりに記憶の保持の苦手さへの対策等を考え実行することができそうですね。



また、Iさんは読み書きも苦手なので、通級による指導の中で、タブレット端末で文字を入力したり、音声読み上げアプリを使用して文章を理解したりする学習を積み重ねています。

代替手段を用いて自身の苦手さを補っているのですね。在籍している学級でもタブレット端末は活用しているのですか。



はい。個別の指導計画を基に、**通級による指導の成果を共有**することで、学級担任や教科担任と連携しながら、少しずつタブレット端末を活用できる場面を広げているところです。

卒業後の社会生活の充実につながる取組ですね。



課題の整理

目標の設定



Iさんは、課題や取組をやり切る経験が少なく、成功体験が乏しいことから、自尊心や自己肯定感が低くなり、自分には無理だと諦めてしまうことが多いことが課題だと感じています。

自分一人で成し遂げる経験や、先生や友達から認められる経験を少しずつ積み重ねることが大切ですね。



そうですね。その中で、自身の困難さに気付いて、いろいろな方法を試しながら、卒業後の社会的自立を見据えた自分なりの対策を見付けてほしいです。

それは、自立活動の目標に当てはまりますね。



項目の選定

イメージできた指導目標を達成するために、6区分27項目の中から必要な項目を考えてみましょう。



自分の特徴などを理解し、集団の中で状況に応じた行動ができるようになることに関する「人間関係の形成(3)」を中心に、「心理的な安定(3)」などの項目と関連付けて指導内容を設定したいと考えます。

指導内容の設定



Iさんはアルバイトに興味があるため、実際に求人情報を見ながら自分にできそうな仕事を探したり、難しそうな場合はどのような工夫をしたらできるかを考えたりする指導を検討しています。

身近な生活と関連した指導内容は、Iさんにとってイメージを持ちやすいため、主体的な学習につながり、自分の特徴とアルバイト内容の比較検討を通して、自己理解が深まりそうですね。



2 指導内容等の整理

情報収集	Iさんの障がいの状態や長所、課題等について情報収集（詳細は47ページ）					
	実態把握	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き
自立活動の区分に即した整理		体力がなく疲れやすいため、徒歩で通学するなど体力の向上を図っている。	課題や取組をやり切った経験が少ない等、成功体験が乏しいことから、自己肯定感が低く、自分には無理だと諦めてしまっていることが多い。	大人とのやり取りが中心で、生徒同士のやり取りが少ない。	時間の確認を忘れてしまうことが多く、予定の時間に遅れてしまうことがある。 スマートフォンのリマインダー機能などを活用し、大事なことを確認できるようにしている。	運動機能に課題は見られないが、滑らかな動作が難しく、ぎこちなさや不器用さが見られる。
課題の整理	・課題に対して取り組む前に諦めてしまうため、できそうなことにも挑戦せずに落ち込むことが多い。 ・安心できる学習環境の中で、自分一人で成し遂げた経験や、他者から認められる経験等を積み重ね、社会的自立に向け、自尊感情や自己肯定感を高めていく必要がある。					
	目標の設定	・自分の得意なことや苦手なことを把握する。 ・社会的自立に向け、自身のよさを生かし、苦手なことを補うために有効な対策を考える。				
項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション
指導内容の設定	【健(4)、心(2)(3)、人(3)、環(4)】					
	① アルバイトの求人情報を参考に、自分にできそうな仕事や、難しそうな仕事について考え、自己理解を深める。		【人(4)、環(5)】		【環(4)、コ(5)】	
			② 「教員サポーター」として、教科担任から依頼される内容等を確認し、学習内容に見通しを持てるようにする。		③ 職業体験での仕事における成果や課題を振り返り、次回への方策を考える。	

※赤枠に関する指導については、「3 指導の実際」を参照

3 指導の実際

◇ 指導内容①に関する指導

- ・本人の意向の基、学校と保護者の了解を得た上で、「自分にできそうなアルバイト先を探す」をテーマに、タブレット端末を使用し、求人誌に載っているアルバイトについて、自分の興味関心に合う点や、自分が取り組む際の難しい点などについて対策を考えるための指導。

○ 授業の流れ

- (1) 前時の振り返りとともに、アルバイトをすることの意義について確認する。
- (2) インターネットでアルバイトの求人情報を検索し、仕事内容、勤務場所及び時間を調べる。
- (3) 自分が継続して働くことが可能な条件なのか教師と相談する際、I C T機器を活用し、前回応募画面に入力した内容を確認したり、他の求人情報と比較したりしながら考える。



【教師と相談する様子】

☆日常の行動パターンを振り返り、将来の社会参加に向けて、スケジュール管理が重要であることを確認する。

- (4) タブレット端末を使って、求人情報サイトの応募画面の入力練習及び履歴書を作成する。

☆Iさんは、志望理由に「人との関わりが苦手なので、レジは無理なため。」と入力していたが、教師が「一人で黙々と取り組む仕事が得意なため。」など、前向きな内容に置き換えながら、入力内容を確認する。

【指導のポイント】

- 自分事として自立活動に主体的に取り組むことができるようにするため、学習内容がイメージしやすい身近な題材を設定すること。
- 自分の苦手さを補うためにI C T機器の活用が効果的であることが実感できるよう、一般的かつ日常的に使用できるアプリを使用すること。
- 自分の考えや意見を言葉で表現できるようにするため、本人の言葉や気持ちを受け止め、肯定的に応答するなどの丁寧なやり取りをすること。

【指導の記録】[○…成果 ▲…課題]

(1) 生徒の変容

- 「自分にできそうなアルバイト先を探す」といった身近で自分事として考えることができる学習を通して、「履歴書の作成を通して自分のよさを考える。」、「アルバイトを始めるまでに必要な手続きやスケジュールを考え実行する。」、「仕事内容と自分のできそうなことを比較検討する。」等について学び、社会的自立に向けた自己理解を深めることができた。

(2) 指導の評価・改善

- 自身の課題を解決するために一般的に使用されているアプリやI C T機器の効果的な活用方法を学んだことにより、主体的に課題に取り組もうとする意識の醸成と自己理解の向上につながった。
- ▲ 通級による指導の成果を他教科等の授業にも生かすため、自立活動の学習内容を学校生活や授業における学習上・生活上の課題に関連させるとともに、通級による指導担当者とホームルーム担任や教科担任等が積極的に連携を図る必要がある。